

# 思川開発事業における 環境保全の取り組み

～ 豊かな自然との調和を目指して～

平成 21 年 3 月

独立行政法人水資源機構  
思川開発建設所

はじめに

思川開発事業では、事業実施区域及びその周辺の区域における環境の現状を把握するために、昭和53年度から環境調査を行ってきました。これらの環境調査結果を基に、平成5年度には「環境影響評価実施要領」（昭和59年閣議決定）に基づく環境影響評価（通称：閣議アセス）を実施し、事業に伴う環境への影響の予測・評価を行うとともに、環境保全対策の考え方を示しました。

環境影響評価実施後も専門家から指導・助言をいただきながら、環境調査を継続して実施しているとともに、新たな調査結果や知見を取り入れた環境保全対策の具体化を図る検討を進めており、検討した保全対策の一部は既に実施しているところです。

事業実施区域及びその周辺の区域では豊かな自然が現存しており、私たちは、多様な動植物の生息・生育環境と豊かな生態系を最大限守るため、次の5つの基本方針に従い事業を進めています。

施工設備、道路等の計画策定にあたっては、保全対策上着目すべき動植物や自然度の高い植生等に可能な限り配慮した計画とし、保全に努めます。

地形改変が生じるところについては、植生の復元に努めます。

水辺への依存性の高い生物について、その生息・生育環境が復元されるよう努めます。

環境保全対策は、学識者・専門家の指導・助言を得ながら具体化し、実施します。

事業実施に伴う環境への影響の把握や、環境保全対策の効果の検証を行うため、モニタリング調査を実施します。

本書は、これまでに実施してきた環境調査の結果を再整理し、事業の実施に伴う影響予測・評価・保全対策について再度検討した内容をとりまとめたもので、動物、植物、生態系の保全対策については思川開発事業生態系保全委員会の指導・助言をいただき作成しました。

今後、新たな種を確認したり、新たな知見が得られた場合や、モニタリングの結果により必要な場合には、保全対策の見直しも含め、引き続き思川開発事業生態系保全委員会の指導・助言をいただきながら、関係自治体等とも協議し、環境保全に最大限の配慮を行いながら事業を進めてまいります。

なお、密猟・盗掘・写真撮影等といった人為的要因により、動植物の個体や生息・生育環境に悪影響を及ぼすことがないように、重要な動植物の生息・生育位置の特定に繋がる資料の掲載は差し控えました。

平成21年3月

独立行政法人水資源機構

思川開発建設所

- 目 次 -

1. 思川開発事業の概要	1- 1
1.1 思川開発事業の目的	1- 1
1.2 思川開発事業の諸元	1- 4
1.3 工事の概要	1- 7
2. 環境への影響の予測・評価にあたって	2- 1
2.1 環境保全の取り組み	2- 1
2.2 環境影響評価の項目	2- 2
2.3 環境調査の実施状況	2- 5
3. 地域の特性	3- 1
3.1 地域の自然的状況	3- 1
3.2 地域の社会的状況	3- 8
4. 大気質・騒音・振動	4- 1
4.1 大気質	4- 3
4.2 騒音	4- 12
4.3 振動	4- 25
5. 水質	5- 1
5.1 調査結果	5- 3
5.2 工事実施に伴う水質への影響	5- 33
5.3 ダム完成後の水質への影響	5- 48
5.4 評価結果	5-120
6. 地下水の水位	6- 1
6.1 調査結果	6- 3
6.2 予測結果	6- 20
6.3 環境保全対策	6- 28
6.4 評価結果	6- 28
7. 地形及び地質	7- 1
7.1 調査結果	7- 2
7.2 予測結果	7- 6
7.3 環境保全対策	7- 7
7.4 評価結果	7- 7

8 . 動物	8- 1
8.1 調査結果	8- 3
8.2 予測結果	8- 17
8.3 環境保全対策	8- 44
8.4 評価結果	8- 46
9 . 植物	9- 1
9.1 調査結果	9- 3
9.2 予測結果	9- 13
9.3 環境保全対策	9- 27
9.4 評価結果	9- 32
10 . 生態系	10- 1
10.1 生態系の考え方	10- 3
10.2 上位性	10- 4
10.3 典型性（陸域）	10-12
10.4 典型性（河川域）	10-22
11 . 景観	11- 1
11.1 調査結果	11- 2
11.2 予測結果	11- 6
11.3 環境保全対策	11-11
11.4 評価結果	11-11
12 . 人と自然との触れ合いの活動の場	12- 1
12.1 調査結果	12- 2
12.2 予測結果	12- 5
12.3 環境保全対策	12-10
12.4 評価結果	12-10
13 . 廃棄物等	13- 1
13.1 予測結果	13- 2
13.2 環境保全対策	13- 3
13.3 評価結果	13- 3

14 . 環境保全への取り組み	14- 1
14.1 事業全体	14- 1
14.2 大気環境	14- 3
14.3 水質	14- 4
14.4 動物・植物	14- 5
14.5 生態系	14- 10
14.6 景観	14- 10
14.7 廃棄物等	14- 10

第 4 章 ~ 第 13 章の冒頭には、各項目への影響を検討した結果の要旨を掲載しています。